

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

市民経済部観光課

市民経済部長 滝本 均

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
12-002	観光サイン設置事業	なし	B	知多半田駅構内に設置している観光PR板と半田運河・蔵のまちエリアに設置している観光スポット解説板について、掲出内容を最新の情報に更新することで観光客の利便性の向上を図ることができた。	拡充 推進	令和元年度は、半田運河HOTORIプロジェクトでにぎわいの創出を図っている蔵のまち公園(荒古町2丁目)に、周辺地図及び観光施設紹介を掲載した観光エリア案内板1基を新設し、観光客が迷わず目的地にたどり着けるよう利便性及び回遊性の向上を図る。
12-004	半田運河活性化事業	あり	B	平成30年度から、半田運河HOTORIプロジェクトによるイベント(brunch、SAKABA、朝市)を実施し、半田運河の新たな魅力の創出と半田運河周辺の活性化につなげることができた。また、テレビや情報誌などのメディアにも取り上げられ、知名度が向上し、半田運河周辺観光入込客数の目標を達成することができた。	拡充 推進	半田運河のHOTORIイベントや、伝統的な和 문화に親しむイベントの拡充とともに、半田運河のブランディングとプロモーションを実施し、知名度・ブランド力の向上による誘客を促進し、さらなる賑わいの創出を図る。
12-005	観光振興事業	あり	A	醸造に関するイベント「醸す博覧会」の開催、鉄道会社との観光プロモーションなど半田市観光の魅力を発信したことにより、年間観光入込客数は目標値を達成することができた。また、半田市観光ガイドをリニューアルしたことや写真スポットに使用できるフォトフレーム及び「HANDA」モニュメントを作成したことにより、半田市をPRすることができた。	拡充 推進	観光客の消費がモノ消費からコト消費へとシフトしているため、半田市ならではの体験企画を造成することや市内飲食店、観光施設をめぐることができる周遊企画を考案し、回遊性の向上と滞在時間の延長を図る。また、引き続き、鉄道会社とタイアップした観光プロモーションを展開し、さらなる誘客を促進する。
12-006	半田市観光協会支援事業	あり	B	観光協会は、企業・市民活動団体等多様な主体と連携を図り、様々なイベントを円滑に実施した。また、ホームページやSNSによる情報発信や、レンタサイクル等による回遊性向上の取り組みにより、観光客の誘客を促進することができた。 蔵のまち観光案内所(アイプラザ半田内)及び知多半田駅前観光案内所(クラシティ内)を適切に運営することで、増加している観光客への案内やおもてなしに対応することができた。	拡充 推進	今後も観光協会の活動を支援することで、観光情報の効果的な発信等観光客誘客のフロント業務を推進していく。また、蔵のまち観光案内所及び知多半田駅前観光案内所の運営や、観光客のおもてなしにつながる各種の事業を展開することで観光客の満足度の向上を図っていく。
12-007	アイプラザ半田管理運営事業	なし	A	観光客駐車場として、蔵のまち東駐車場の認知度が上がり、蔵のまち観光案内所(アイプラザ半田内)への観光立寄者数は増加した。前年に比べ公的なイベントによる貸館利用が減ったため、稼働率は減少したが、一般利用が増加したことで、施設使用料金については目標値を達成した。	改善 推進	今後は、観光立寄者数を増加させるため、物産コーナーの見直しやPR方法を工夫する。また、貸館の稼働率を向上させるため、貸館施設としての認知度を高めていく。令和元年度は、施設の安全性の確保、長寿命化、快適化のため、講堂天井耐震化、空調設備の全面更新、全館の照明設備のLED化を実施する。

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
12-008	半田赤レンガ建物 管理運営事業	なし	B	認知度が高まり、一定の集客が見込めるようになった「半田赤レンガマルシェ」、「カプトビールフェスタ」、「ドイツ祭り」の開催に加え、新たに地元の野菜を販売する「フレッシュマーケット」の開催、上半田地区と連携した春祭り、商工会議所青年部とのクリスマスイルミネーションなど地域と連携したイベント開催により、目標来場者数を達成することができた。一方で、観光バス来場台数やクラブハウス利用件数が前年度より減少したことは、次年度への課題である。	改善 推進	令和元年度は、半田赤レンガ建物がドイツにゆかりのある建物であることから、ドイツ祭りの拡充やカフェメニューにドイツ料理を加えるほか、半田赤レンガ建物やカプトビールの歴史を多くの方に知っていただくためのカプトビール飲み比べガイドツアーを実施するなど、更なる魅力の向上と誘客を図る。また、カフェスペースやクラブハウスの利用促進を図っていく。
12-009	半六庭園管理運営 事業	なし	C	庭園やトイレの清掃、緑地管理など環境美化業務を実施し、半田運河にお越しいただいた方へのおもてなし・憩いの場としてふさわしい環境を維持することができた。また、邸宅を管理する特定非営利活動法人半六コラボによる観光案内を実施し、きめ細かいおもてなし対応が図れた。 半田運河HOTORIイベント等の新たな会場として活用し、庭園の雰囲気を活かしたイベントを展開することができた。一方で入場者数が前年度より減少したことは、次年度への課題である。	現状 維持	おもてなし・憩いの場としてふさわしい環境を維持するとともに、特定非営利活動法人半六コラボを始めとした庭園に関わる各種団体との連携や、拡充実施する半田運河HOTORIイベント等を展開し、半田運河周辺の活性化を図る。
課等長	1次評価(30年度の総括評価)					
B	半田運河周辺の活性化を図るため、各種半田運河HOTORIイベントの開催や、醸すごはんでの「寿司」のPR、醸造に関するイベント「醸す博覧会」の開催、鉄道会社との観光プロモーションなど、新たな魅力の創出や知名度・イメージ向上による誘客促進を図ることができた。 半田赤レンガ建物、アイブラザ半田の施設運営は、指定管理者制度を活用し、民間事業者の創意工夫による事業展開を図った結果、入場者数の目標を達成することができた。今後一層、各施設の魅力を高めていくとともに、各施設の役割を認識した運営を行っていく。					
部等長	2次評価(30年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
B	半田赤レンガ建物やミツカンミュージアムなど主要観光施設の知名度や半田市観光の魅力が高まってきたことにより、目標である年間観光客数を達成することができた。また、知多半島観光圏事業、竜の子街道プロジェクトなど、広域観光を推進し、エリア全体での誘客促進を図った。令和元年度は、昨年秋から始まった半田運河周辺のイベントを充実させ、半田運河の賑わいを創出するとともに、国際展示場のオープンに合わせて、観光客の受け入れ体制を充実させるなど、広域観光による誘客を強化していく。					